

TAMA市民塾・日曜講座のお知らせ

第114回 山歩きでおきる虫刺されを防ぐ

【講師】 **秦 和寿 氏**

山地の有害昆虫や虫刺されを調査対象とし30年以上を経る。日本山岳会医療委員会委員（衛生動物部門）、日本有害生物研究会常任幹事、山の自然学クラブ理事。

【内容】 山歩きで虫に襲われたことはありませんか？日本の山は美しいですが、予期せず、虫に刺されることがあります。特にスズメバチ、マダニやブユ等による被害はアレルギー反応をおこし深刻です。虫害をどう防ぐか。山の有害昆虫類の標本を提示し、虫の被害を防ぐための防虫具や応急処置法を示します。また伝統的な防虫法についても江戸時代の古典籍を紹介し、虫のことを頭の隅にでも入れておけば、いざと言う時にあわてないですみます。



日時 平成30年7月22日(日) 14:00~16:00
 場所 多摩交流センター会議室 京王線府中駅北口府中駅北第2庁舎6階(府中市寿町1-5-1)
 申込方法 当日会場にお越しください。先着50名までとさせていただきます。
 受講料 無料
 問合せ先 多摩交流センター内 TAMA市民塾 TEL 042-335-0111



ちょっと一息

島しょの土産&カフェ【番外編】



毎年「ぐるり」7月号~9月号の表・裏表紙では、東京の島しょ地域のスポットを紹介しているけれど、その前に今回は、お土産を取り扱っているアンテナショップ「東京愛らんど」を案内するね。

「東京愛らんど」は、伊豆諸島・小笠原諸島の玄関口の竹芝客船のターミナルの中にあるんだ。

店内には、焼酎や明日葉、島のりなどの、東京の島の土産品がいっぱいあるよ。

カフェも併設していて、島とうがらしのホットドッグ、ムロアジメンチバーガーなど、東京の島こだわりの食材を使ったメニューを堪能できるんだ。



店内のカフェの様子



「東京愛らんど」店舗入口

【現地案内】

JR山手線「浜松町駅」北口から徒歩7分
 都営地下鉄(浅草線、大江戸線)「大門駅」B2出口から徒歩7分
 ゆりかもめ「竹芝駅」東口から徒歩1分

【情報提供】

公益財団法人
 東京都島しょ振興公社
 TEL 03-5472-6546
 東京愛らんどホームページ
<https://www.tokyoislands-net.jp/>



広域的市民ネットワーク活動助成事業紹介

フォーラム 『多摩の歴史と未来—まちの魅力をさぐる—』

日時 平成30年7月22日(日) 13:30~16:40 (13:15開場)
 場所 西東京市民会館公会堂(西武新宿線田無駅北口徒歩10分)
 内容 天平のロマン・活気ある江戸時代を通して見えてくるものと、将来を見据えることによる現代のまちづくりの提案について、下記の二人の講師がそれぞれの講演の後、対談します。
 ・国分寺市観光協会会長・前国分寺市長 星野信夫氏「天平のロマンと現代のまちづくり」
 ・駒澤大学教授 中野達哉氏「近世の武蔵野—江戸と結びつき発展する地域—」
 ・対談「多摩の未来を語る」(星野・中野両氏、コーディネーターは小金井雑学大学理事五十嵐京子氏)
 参加費 500円(資料代を含む)
 主催 まなびの雑学実行委員会(NPO法人小金井雑学大学・NPO法人東京雑学大学共催)
 問合せ先 小金井雑学大学 TEL 080-5645-1477
 東京雑学大学 TEL 0422-52-0908 FAX 0422-53-8121



「文化芸術を通じた子どもの地域再発見」

内容 思春期世代の心の動きをテーマにした舞台「オールライト」開催に向けて、各地域において座談会を開き子どもたちの「本音」を集めたり、各地域でアンケートを取ったりしながら文化環境等の実態調査を行います。次にその調査から見えてきた「課題」について多摩北部地域の子どもたちと座談会で交流。また、プロによる舞台のテーマに沿ったワークショップを実施。このような連続した文化芸術活動を通して、自己表現や交流の場がたくさん生まれ、人がつながり、地域がつながり、そして豊かな文化環境が育まれていくことを目指した活動です。

<鑑賞・交流>舞台鑑賞「オールライト」(青年劇場)
 日時 平成30年10月12日(金) 19:00開演(予定)
 場所 小平市ルネこだいら中ホール(西武新宿線小平駅より徒歩3分)
 参加費 子ども1,500円・大人2,500円
 <知る>6月「子どもたちの文化環境等実態調査」
 清瀬・東久留米・西東京・東大和・小平・東村山の6市各地域開催

<体感>8・9月「青年劇場ワークショップ & 座談会」清瀬・東大和
 参加費 500円
 主催 多摩北部子ども文化実行委員会
 問合せ先 TEL 徳原 080-9290-2611
 メール hmy.kogeki@jcom.home.ne.jp

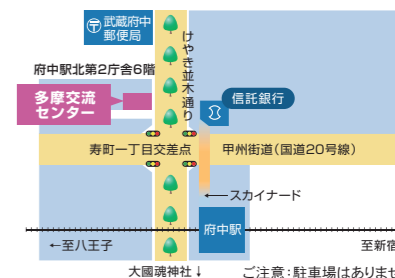


「多摩交流センターだより」の問合せ先

(公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター

〒183-0056 府中市寿町1-5-1 府中駅北第2庁舎6階
 TEL 042-335-0100 FAX 042-335-0127
 ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>(当調査会ホームページ内にコンテンツがあります)

☆多摩交流センターは、広域的市民ネットワーク活動の支援、多摩地域市民交流の場の提供等を目的として活動しています。



編集後記

- 6月になりました。梅雨の時期になり、曇りや雨のすっきりしない天気の日も増えますが、昼の時間が長くなり、合間の日差しにもジリジリとした夏の活気が感じられるようになります。この季節には、アジサイ、ハナショウブ、ユリ、ナツツバキなど多くの植物が花を咲かせます。
- これらのほかに、この時期から花が咲き出す植物の一つにキバナコスモスがあります。例年6月から10月にかけて花が咲くので、各地の公園や河川敷に群生しているのを目にしたことのある方も多いことと思います。
- このキバナコスモスに似た植物に、オオキンケイギクがあり、例年5月から7月にかけてキバナコスモスによく似た花を咲かせます。
- とくろで、私たち人類をはじめ、地球上のあらゆる生きものは相互に関わりあひながら生きています。このことを生物多様性といいます。私たちも生物多様性の一員であり、他のたくさんの生きものとともに、食べ物や水など生物多様性から得られる恵みを受けて生きています。
- しかし、北米原産の多年草で繁殖力がとても強いオオキンケイギクは、いったん定着してしまうと元々その地域に生息していた在来種の生息場所を奪い、周囲の環境を一変させてしまいます。このため、外来生物法に基づく特定外来生物に指定されています。
- 多摩地域の自治体の中には、ホームページでオオキンケイギクなど特定外来生物に当たる外来種を紹介し、その駆除を働きかけたり、目撃情

報の提供を呼び掛けているところもあるほどです。
 ○ オオキンケイギクは、運搬や栽培が禁止されています。見かけた場合には、種子が飛散しないよう、抜いた後にビニール袋に入れ、枯死させてから燃えるごみとして処分するなど、駆除することが肝要です。
 ○ 外来種の駆除等に積極的に取り組まなければ、植物だけでなく、昆虫、動物ひいては人間にも大きな影響が及ぶことが懸念されます。こうしたことから、外来種の問題は生物多様性に対する危機の一つになっています。
 ○ 当調査会では、オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」の一環として、平成27年度から29年度まで、「生物多様性の保全に関する研究」を行ってきました。この研究に参加した自治体の中には、同じ悩みを抱える自治体同士で共同して外来種の問題の解決に取り組んだところもありました。
 ○ 私たち一人ひとりが生物多様性に配慮したライフスタイルを心掛けることは、地域における生物多様性を保全するだけでなく、豊かで安心安全な生活を享受することにもつながります。また、このような取組を続けていくことは、将来にわたって持続可能な地域社会の構築につながります。
 生物多様性にちょっと関心を向けてみませんか。

(S. K)